

教科・科目	芸術・音楽 I (必修)		単位数	2	単位	履修学年	1年
目標	様々な音楽活動を通して、個々の感性を高め鑑賞能力を伸ばすとともに、音楽文化について理解を高め、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。						
使用教材	教科書 MOUSA 1 (教育芸術社) 副教材 学生の音楽通論 (音楽之友社)、音楽ノート、リコーダー (小・中学校で使用していたもので良い)						
評価の観点・評価規準	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力			
	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図をもっている。	創意工夫を活かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。			
評価方法	実技 (歌唱等) テスト、定期テスト、感想文等の提出物、授業中の態度						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> 音楽に親しもう (少年時代、翼をください、見上げてごらん夜の星を等) 日本の歌を歌おう (花、夏の思い出) リコーダーに親しもう 楽譜を読もう 			<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身にとって歌い慣れた、ポピュラー音楽を取り組んでいくことにより音楽への興味関心をさらに高める。 歌詞の意味、発音に注意しながら歌うことにより、日本歌曲の持つ美しさを体で感じる。 曲の構成を理解し、それらを理解した上で演奏表現する。 小、中学校で学んだ音楽用語、音名を再確認し、楽譜中の情報を読み取る力をつける。また、ドイツ音名にも親しむ。 読譜をしながら簡単なリズム打ち等を行うことにより様々なリズムに親しむ。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> 舞台芸術に親しもう 世界の音楽に触れよう (メモリー、カーロ・ミオ・ベン、オ・ソーレ・ミオ他) 世界の音楽の歴史を知ろう 			<ul style="list-style-type: none"> ミュージカルの鑑賞を通して、様々な音楽の表現方法を知る。劇中歌を歌うことにより、さらに内容理解を深める。 イタリア歌曲を原語で歌うことにより、歌詞と旋律との関係を理解し言語の持つ美しさを感じとる。 鑑賞を交えながら、西洋音楽の歴史の移り変わりを音で感じとり理解を深める。また、それぞれの音楽的特徴を理解し、感想を自分の言葉で表現できる。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の音楽の歴史を知ろう 世界の音楽に触れよう (ジャズ、民族音楽等) 日本の伝統音楽に触れよう 音階を選んで旋律をつくらう 			<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞を通して雅楽など、日本古来の音楽への理解を深めつつ歴史を学ぶ。 戦後歌謡史から現在の大衆音楽の流れについて理解し、音楽著作権についても重ねて理解する。 世界中における様々なジャンルの音楽に対して理解を深める。 謡等日本の伝統的な音楽表現について理解し、表現する。 簡単なメロディをつくり、創作というジャンルについて興味を深める。 			
学習上の留意点	何事にも集中して取り組んでください。感想文等の提出物は必ず提出すること。						